



インターネットでの情報提供	
提供予定日	2月19日(水)

平成26年2月18日(火) 県政記者クラブ配布資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
地域医療推進課	総合療育推進係	山田 育康	内線 2628、058-272-8279(直通)
特別支援教育課	特別支援学校整備係	松原 勝己	内線 3557、058-272-8751(直通)
公共建築住宅課	建築第一係	堀 伸次	内線 3663、058-272-8698(直通)

岐阜県立希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校 再整備事業起工式の実施について

県では、医療・福祉・教育が一体となった障がい児療育の拠点である希望が丘学園（病院、医療型障害児入所施設、医療型児童発達支援センター）及び岐阜希望が丘特別支援学校の再整備を進めています。

この度、本体建設工事の着工に際して、下記のとおり起工式を行いますので、お知らせします。今後着実に整備を推進し、岐阜県の新たな障がい児支援の拠点として平成27年9月の供用開始を目指します。

記

1 起工式の概要

- (1) 開催日時：平成26年3月18日(火) 午前10時～11時 雨天決行
- (2) 式典会場：新施設建設予定地（岐阜市則武1816番地）
※旧岐阜市立伊奈波中学校跡地
- (3) 出席者：地元関係者、岐阜県議会議員、県関係者等 約130名

【起工式会場】



2 希望が丘学園・岐阜希望が丘特別支援学校の概要

(1) 整備概要

注：平成26年1月末時点の計画であり、今後変更する場合がある

区 分	希望が丘学園	岐阜希望が丘特別支援学校
利用者数	・病床数／53床 [現入園児:25.6名] ・通園定員／50名 [現通園児:35名] (※1)	・児童生徒数／90名(小・中・高) [現:41.2名(小・中)]
延床面積	・約7,100㎡ [現:4,800㎡]	・約7,500㎡ [現:約2,000㎡]
共 通	・所在地／岐阜市則武1816番地(旧岐阜市立伊奈波中学校敷地)ほか	
	・敷地面積／約27,000㎡ [現:約12,800㎡]	
	・建物／鉄筋コンクリート、2階建て	
	・概算事業費／約6.4億円(学園:約3.4億円、特別支援学校:約3.0億円)(※2) うち建設工事費／約5.0億円(学園:約2.5億円、特別支援学校:約2.5億円)	

※1：平成20～24年の平均 ※2：現施設の解体費を含む

(2) スケジュール

平成26年3月：1期建設工事着工

平成27年4月：2期(特別支援学校体育館)土地造成工事着工

平成27年6月：1期建設工事竣工

平成27年9月：供用開始

平成28年4月：岐阜希望が丘特別支援学校に高等部開設、2期建設工事着工

平成29年3月：2期建設工事竣工(※全施設が完成)

3 新施設の再整備に伴って強化される機能

(1) 希望が丘学園

＜重症心身障がい児、肢体不自由児＞

■入所病床数が拡大します

・現在は30名程度の受け入れが限界である病床数を50床に増床

■医療的ケアが充実します

・重症心身障がい児の痰(たん)の吸引などに必要な設備を、病床ごとに整備

■在宅重症心身障がい児の短期入所を拡充します

・在宅生活を送る重症心身障がい児の保護者支援を強化するため、レスパイト(※)のための短期入所の受け入れ人数を、県内最大規模に拡充

【短期入所の利用定員】

区 分		現 状	再 整 備 後
日帰り利用	平 日	5名	5名
	土日、祝日	3名	5名
宿泊利用	平 日	2名	2名
	金土日、祝前日、祝日	2名	5名

(※) 障がい児を在宅でケアしている家族を癒すため、一時的にケアを代替し、リフレッシュしてもらう家族支援サービス

- 肢体不自由児の医療・検査設備を強化します
 - ・MRIを新たに導入し、肢体不自由児の検査・治療を強化

<発達障がい児>

- 診察を拡充します
 - ・児童精神科外来（現在は週1回2時間のみ）を常設化し、より多くの診察を実施
- 療育支援の新たなプログラムを開始します
 - ・検査、療育指導を行う短期入院指導プログラムを、専用室（3床）を設けて実施
 - ・集団活動を通して療育を行う集団精神療法プログラム等を新たに実施
 - ・感覚統合療法のための専用室を新設し、訓練（リハビリ）体制を強化

（2）岐阜希望が丘特別支援学校

- 高等部を新設し、一貫した教育を実現します
 - ・現在の小学部・中学部に加え、新たに高等部を設置
 - ・普通教室を現在の15室から28室に増加
- 障がいの重度・重複化や多様化にも対応します
 - ・障がいの重度・重複化や多様化に伴い、医療的ケアのための医療的ケア室や、心身の発達を促すためのジャグジープール等を新たに整備。十分な活動ができる屋内運動場（体育館 ※2期建設工事）やグラウンドも整備
- 職業教育にも対応した特別教室を整備します
 - ・陶芸、被服、パソコン等の特別教室を新設、職業教育を強化し社会自立に繋げる

4 新施設に関連して取り組んでいるソフト施策

（1）障がい児者医療

①医師の育成・確保

- 岐阜大学における「障がい児者医療学寄附講座」の設置 ※地域医療再生基金事業
 - ・障がい児者医療に関する医学生の教育及び勤務医・開業医に対する技術向上等を目的とした寄附講座を、岐阜大学に設置
 - ・希望が丘学園等における障がい児医療の臨床研究や、在宅重症心身障がい児の診療に関する合同カンファレンスのモデル開催等も実施

②看護師の育成・確保

- 「重症心身障がい児者看護人材育成研修」の実施 ※地域医療再生基金事業
 - ・重症心身障がい児者の在宅支援に重点を置き、訪問看護ステーションや特別支援学校と連携した実習を組み込むなど、年間約70時間の本格的な専門研修を実施（4月～）
- 看護師募集ガイダンス等への出展 ※緊急雇用創出基金事業
 - ・名古屋市等で開催される看護師募集ガイダンスに希望が丘学園が参加（2月～）
- 「障がい児看護フェア」の開催 ※緊急雇用創出基金事業
 - ・障がい児者医療に従事する看護師の募集を目的とした相談会や展示等を行う催事を、県内5圏域で開催（3月～）

③発達障がい児療育人材の育成

■発達障がい療育人材育成研修の実施 ※地域医療再生基金事業

- ・発達障がい児者の検査・療育に実際に従事することにより、心理士等を育成するプログラムを実施

④障がい児者医療に関する普及啓発

■障がい児者医療を理解する連続講座の開催 ※緊急雇用創出基金事業

- ・障がい児医療に携わる医師、看護師、療法士等を講師とする、医療・福祉関係や県民向けの連続講座を開催（4月～）

（2）特別支援教育

①教員の専門性の向上

■コア・スクールを核とした教員の専門性の向上

- ・岐阜大学との連携の下、各障がい種における教育の中心となるコア・スクールを設置し、県内特別支援学校の指導力向上を目的に、公開研修会や公開授業研究会等を実施
- ・教員一人一人の指導力向上を目的に、より専門性の高いコア・ティーチャーを養成し、そのコア・ティーチャーを核として、授業改善や支援会議等の校内支援体制を整備

②交流及び共同学習を推進

■交流籍を生かした居住地校交流の推進

- ・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応えるため、特別支援学校の小中学部児童生徒に、居住地の小中学校に交流籍を設け、教育内容や回数など個に応じた居住地校交流を実施

■学校間・地域交流の推進

- ・共生社会の実現に向け、特別支援学校や近隣の学校の児童生徒が互いに触れ合う直接交流の他、印刷物等の配布といった間接的な交流も実施
- ・特別支援学校の児童生徒によるボランティア活動や地域の行事への参加等の推進

③特別支援教育ネットワークの強化

■地域連携ネットワークの構築

- ・就学前から高等学校卒業後まで一貫した支援を行うため、教育・福祉・保健・医療等の関係者から成る連携協議会を開催し、特別支援学校を核とした学校間の接続を強化

■特別支援学校のセンター的機能の一層の充実

- ・特別支援学校の教員が地域の小中学校等を訪問し、障がいのある児童生徒に関する相談や研修会等を実施